opusdei.org

本当の話

イレネ・カルパスは90才の時、ポロニアでオプス・デイを知った。丁度、聖ホセマリアが天国に旅立った記念日である2002年6月26日であった。

2006/07/19

偶然、フィルトローバ通りにいました。その通りに面して私達家族の家があり、戦争中(1939年9月から1944年11月まで)そこに住んでいました。この家から、母、父、家の持ち主である叔母、そして私は出て行

きました。ここで、私達は逮捕され、強制収容所に送られたのでナチスブルック(ナオラは、ラヴェンスブルック(ナオラは、カウで、父は、父は、アスの強制捕虜収容所)で、父は、父は、大大の強制があるが、それ以容があるといました。その強いは、大きないました。そのでは、私はいいといいというでした。余りにもないました。余りにもないました。余りにもないました。余りにもないました。余りにもないました。余りにもないまからです。

この6月26日、ナウトヴィッチ広場 の方からフィルトローバ通りに入り ました。ただただ歩きました。なも か分かりません。今だに自分ですいる 明できないのです。そしてフィがません。 ローバ通り27にある以前の我ではある はこれていました。外からは、全えま を整えられているように見え素敵 た。庭も、修復された明る 大していました。 「ああ、ガレージは ました。 まだ」とつぶやきました。 「裏庭は どうなっているだろう?」とひまっているだろう?」との事ででながら、門の取っていながら、私はいかいないではないででなっているでではないでではないが、からではないでではないが、からではないでであるは、そしているないでしました。 後退りしました。

れました。「ここに、テラスがあり ました」と言うと、彼は怪訝そうな 顔をしたので、ここは私の家だった ところで戦争中住んでいたことを話 しました。彼は私を家の中に招き入 れてくれました。私は玄関ホールに 居ました。何が何だか分かりません でした。以前は居間だった部屋につ づく廊下を歩いて行きました。そこ で、1944年に逮捕されたのです。し かし、その部屋はありませんでし た。今そこには、小聖堂があり、 祈っていた一人の司祭が私を見て微 笑みかけました。私はそっと挨拶し てそこを去りました。余りにもたく さんのことで頭の中がいっぱいでし た。

50年後のその家は、オプス・デイのセンターになっていたのです。私はオプス・デイも創立者についても知りませんでした。「どうしてここに至ったのでしょう?」この時から、私にとって予想もしなかったことで

すが、オプス・デイを知ったので す。そして、大きな変化が生じはじ めました。とりわけ私の内的生活に です。今、私はオプス・デイのスー パーヌメラリアです。私は神に、そ して見ず知らずのふさわしくない私 を選んでくれた聖ホセマリアにとて も感謝しています。 私は90才になり ましたが、高齢者、病人、そして人 生に希望を無くしている全ての人々 に、神の恩寵がいつ私達にもたらさ れるのかは誰も知り得ないし、いか なる限界もないのだということを伝 えたくて、この話をしました。この 世に生まれて以来、つまり洗礼を受 けた時から当然のことながら、私は 神のもとで生きてきました。しか し、私の全生涯は神と共にいるとは 言え、生ぬるいものでした。今、よ りしっかりとした内的生活を持ち始 めています。日々、それを深めよう と努力しながら。そして、生涯の最 後になって、価値がある新しいこと

を始めさせて下さったことを、	心か
ら神に感謝しています。	

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/ben-dang-nohua/ (2025/11/21)